

令和6年度 入札監視委員会議事概要

北海道防衛局・帯広防衛支局

開催日及び場所	令和6年9月5日（木）北海道防衛局第1・第2会議室
委 員	菊地 均（大学名誉教授） 神谷奈保子（大学客員教授） 北守 一隆（大学名誉教授） 中野 雅文（弁護士） 池田 駿矢（公認会計士・税理士）

防衛省発注機関が締結する契約（建設工事等）に関する審議

審議対象期間	令和6年4月1日～令和6年6月30日		
審議対象件数	35 件		
1. 入札状況について（入札参加資格の設定、指名及び落札者決定の経緯等について）			
抽出件数	5 件	（審議概要） 1 契約状況の説明 2 抽出事案の概要説明 3 抽出事案の審議	
建設工事	一般競争契約		1 件
	一般競争(政府調達協定対象外)		0 件
	公募型指名競争		0 件
	指名競争		0 件
	随意契約		0 件
建設コンサルタント業務等	4 件		
	意見・質問	回 答	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答	【抽出案件】 ① 令和6年度矢白別演習場周辺地区牧草地改良等工事 ・数年、同一業者と契約している。他の参入が難しいのか。	・本事業は土木ではあるが、内容は農業土木となっており、専	

○委員からの意見・質問
○それに対する回答

・契約者以外の参加業者は、帯広支局において同様の事案を契約したりしているのか。

・ほかに参加できる業者はいないのか。

・なぜ5月に発注するのか。

・近くにほかの業者はいないのか。

・落札率が高いが予定価格は積算しているのか。

② 千歳外（6）施設最適化総合設計

・公募型プロポーザル方式での発注を選択した理由について、説明して頂きたい。

用重機が多種使用されており施工可能な業者が限られること、現地までの自走が困難な重機であり運搬費用が多く計上される業務であることから、近傍の業者が有利な状況であると推測している。

・当支局においては同様の事業の契約はない。

・本事業は例年5月に公告しているが、北海道農政部は3月に入札が終了しており、主だった業者はすでに他の業務を抱え技術者の確保が困難であると推測している。

・新年度予算示達後の発注となるためである。

・標津に昨年度入札参加の業者が1社あるが、技術者の確保が困難であるとの理由で参加出来ないとのことだった。

・積算は公表されている北海道農政部の基準等を準用しており、業者側でも高い精度で積算を行うことが可能と推測している。

・本件は高度な技術、専門的な技術を求めており、入札参加者からの技術提案書を審査し、一番評価が高かった者と契約を交わす、公募型プロポーザル方式を採用した。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 価格よりも技術力が重要ということか。 | <ul style="list-style-type: none">・ はい。金額についても、業務説明書中で概算を提示しており、この額を目安にして参加して頂いている。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 技術提案の審査基準はどのようなものか。 | <ul style="list-style-type: none">・ 業務説明書中に評価基準を提示しており、これに従い判断している。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 本件は一者応募であり、競う相手がなく相対的に優劣が決められない状況であるが、受注者の提案が問題ないとの判断に至った根拠等はあるか。 | <ul style="list-style-type: none">・ 技術提案のテーマが2つあり、受注者が提出した内容を評価者が妥当であると判断した。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 内容が妥当であった場合、自動的に落札者となるのか。 | <ul style="list-style-type: none">・ いいえ、次の段階として見積依頼をすることになる。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 最終的に予定価格と契約額が少しずれたのは、その見積合わせで金額が確定したということか。 | <ul style="list-style-type: none">・ そうである。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 評価というのは誰が行うのか。 | <ul style="list-style-type: none">・ 技術職から、勤務年数や経験を考慮して、専門官以上の5名の評価者を立てている。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 工期が令和11年迄となっているが、契約金額は今年度までに支払うのか。 | <ul style="list-style-type: none">・ 年度毎の支払額が決まっており、これに従って毎年度支払いされる。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 最適化という概念について、具体的に説明願いたい。 | <ul style="list-style-type: none">・ 自衛隊施設の中には、例えば大正や昭和時代に建設された老朽化した建物がたくさんあり、それを未だに隊員が使用しているという現状がある。この老朽化した施設を解体・新設したり改修するため、向こう約5年間で一気に設計を実施し、その後設計が完了した施設から、工事着工していくという取り組みが現在、防衛省において全国で行われており、これを最適化事業と言っている。 |

・応募がJV1者であり、金額も大きいことから、イメージ的にある程度の実績が必要な発注なのかと想像していた。

・事業内容にある交渉等技術資料作成業務とは何か。

・本件は参加者が一者で、この受注者ありきの発注だとしたら問題だが、適正な過程が踏まれているのであれば良いのではないか。時代に合った物を是非構築して頂き、災害対応など出来る様、国民の期待・付託に応える様にして頂ければ。

・通常の設計では1棟とか2棟であるが、本件は改修・新設で200棟以上の規模であり、契約額は大きいですが、妥当なものと考えている。

・当局職員が行う工事費の積算、設計変更の資料の作成とか積算について、受注者に委託するものである。

・承知した。

○委員からの意見・質問
○それに対する回答

③ 当別外（6）構内線路整備等設備設計

・本件は一者応札ということだが、実施場所が当別と奥尻でかなり地理的に離れており、それが影響したのかと考えるが、その辺りの見解はあるか。

・技術点が60点中18.853ということで数字だけ見ると、低い様に見受けられるが。

・参加資格があることである意味評価されており、更に評価し

・当別分屯基地及び奥尻分屯基地における事業は、同一の整備内容の設計であるため、纏めて発注することにより、効率的な業務が可能となること、また、それぞれの事業規模が小さいため、発注ロットを大きくすることで、多数の応募者が見込めると考え発注したものであり、地理的要因ではない。

・技術評価点は仮に0点だったとしても、参加資格があれば参加ができる。評価基準により、業者提出資料を審査して加点していくということである。

・そうである。複数者の参加があれば、その評価点の差で受注

○委員からの意見・質問
○それに対する回答

ていくのが評価点で、その者自身の良し悪しを判断するものではないということか。

④ 札幌（6）構内線路整備等設備設計

・本件は実施場所が札幌駐屯地ということで、そんなに悪くない条件かと思うが、なぜ一者応札になったのか見解はあるか。

・今後もその様な事態が続く可能性があるのか。

・札幌市内に参加できる事業者はどれくらいいるのか。

出来るか出来ないかということになる。

・北海道内の建設市場は、公共工事のみならず民需の増加も相まって、非常に工事量が増加している状況にあり、それに伴って設計の業務量も増加している。今年度の当局の事業は、昨年に比べて3倍を超える規模となっており、設備設計コンサルタント業者の技術者不足が、一番の要因となっている。このような状況の中で、設備コンサルタント各社は、限られた技術者を配置するため、事案の選別を行い参加することとなるため、当該業務は、比較的小規模の事業になっていることなどから、入札参加を見送られ、結果、一者応札になったものと推測している。

・北海道設備設計事務所協会への発注予定業務についての説明会を開き、協会員への当局業務の説明や意見交換を行うのみならず、過去に参加していた者などを含めて広く情報発信に努めている。その結果、今年度新規に入札参加した者が増えており、少しずつ参加者の拡大に向けて取り組んでいる。

・北海道の設備設計事務所協会の会員は、今、資料がないので、はっきりした数字は覚えていないが30社程度いる。その大半は札幌近郊の業者である。

○委員からの意見・質問
○それに対する回答

・価格評価点というのは、どの様に算出するのか。

・価格評価点は、 $30\text{点} \times (1 - \text{入札価格} / \text{予定価格})$ で算出される。

⑤ 千歳飛行場周辺（6）移転措置事業に伴う測量等調査業務

・測量調査業務は、比較的落札率が低めであるイメージがあり、本件についても参加者全者が予定価格より結構低い額で応札している。予定価格の算出方法に見直しの余地がある様なものなののかについてご説明頂きたい。

・予定価格積算について、測量は防衛省の歩掛、建物等調査の方は用対連という国土交通省の関係する団体があり、その歩掛等を使っている。特に見積等を多く使わないので、業者によって変化することはなく、あくまでも公共単価で積算しており、予定価格の設定自体に問題はないと考えている。また、落札率については、測量業務は積算の大半が人件費であり、業者の社員の運用次第で、落札率が少し低くなる傾向があると考えている。

・会社側の判断になるということで、それが妥当かどうかなかなか判断しがたい、ということか。

・稼働率など業者も考え方が違うので一概には言えないが、発注側としては、定まっている公共単価で、どの様な業者でも出来る価格を組んで、一般競争入札するという考えで実施している。

・成果物は業者によって良し悪しはあるのか。

・新しい創意工夫を求めるものではなく、面積をきちんと計ったり、用対連基準・単価に基づき補償金額を算出してもらう業務なので、品質に差は生じない。

・業者次第で、予定より少ない人数でも、きちんと成果物を作成できるということか。

・そうである。

・過去の入札状況を見ると落札

・そういうことだと推測してい

率が60%代だったり80%代だった
りというの、その時の会社の
状況ということか。

2. 談合疑義案件の処理状況について				
談合疑義案件	0 件		(審議概要) 処理状況を報告	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	意見・質問		回 答	
	・なし			
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・なし			
3. 再苦情処理（再説明請求回答）				
再苦情申立件数 (再説明請求件数)	総件数 0 件		(備考)	
建 設 工 事	一般競争(政府調達協定対象外)	件		
	公募型指名競争	件		
	指名競争	件		
	随意契約	件		
建設コンサルタント業務等	件			
再苦情申立概要 (再説明請求概要)	申立日	件名	契約方式	内容等
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答	意見・質問		回 答	
	・なし			
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・なし			